

令和4年4月8日 市長定例記者会見

◆司会

それではただ今から、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。今日は『カムカムエヴリバディ』最終回だったんですね。皆さん、通勤の途中で見られなかったと思いますけれど、私はたまたま7時半に見られて、本当に感動しました。本当に素晴らしい100年の日本の家族のドラマだなと、そんな気持ちでありますので、冒頭申し上げつつ、今日の記者会見に入りたいと思います。

話題は二つです。まず、ウクライナ避難民の支援等について、ウクライナから本市に避難された方々への支援などについて、2点発表をいたします。まず一つ目は、3名の避難民の方々を静岡市に迎え入れることが決まりました。この3名の方々は、4月1日に静岡県が受け入れについて相談を受けている、と発表された方々と同一です。県内に住む日本人とウクライナ人のご夫婦が呼び寄せた、奥様のご家族となります。すでに入国し、県内に滞在されております。現在、ご家族全員で静岡市の市営住宅に入居できるよう調整を進めています。静岡市への転入手続きが済み、入居がされ次第、具体的な支援についての希望を伺い、民間の団体とも連携を図り、静岡市内で安定した生活ができるように支援してまいります。なお、避難されてきた、この3名の方々は全員未成年であります。ご夫婦、ご家族ともに直接の取材は望まれておりませんので、氏名や年齢、市営住宅の場所などはお知らせすることができません。ご理解をいただきたいと思います。今後、ご本人たちの意向を確認しつつ、お伝えできる状況についてはお伝えしていきたいと考えておりますので、報道機関の皆様にはご配慮をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

二つ目は、静岡市国際交流協会の会長も私、務めていますので、報告をいたします。ポーランドへ避難したウクライナの人々に対する支援のため、国際交流協会では観光交流文化局国際交流課と協力をしながら、静岡庁舎と清水庁舎に募金箱を設置し、市民の皆さんからの募金を受け付けていました。本当にうれしかったことですが、3月11日から31日までのわずか21日間で156万円もの浄財をお寄せいただきました。市民の皆様のウクライナの人々をなんとか支援したいという強い気持ちを感じました。この場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。なお、お預かりしたこの浄財は、ポーランドのワルシャワ近郊で避難民支援にあたっておられる坂本龍太郎さんにお届けさせていただきました。坂本龍太郎さんのことをご存じの方もいらっしゃると思いますけれども、現在、ワルシャワの日本語学校で教頭を務められております。ご本人もポーランド人の奥様も静岡大学ご出身というご縁で、日本語学校のサマースクールで、ワルシャワで日本語を教えている生徒さんを連れて、何度も静岡市を訪れております。その際も、静岡市国際交流協会がその支援をしておったというご縁であります。ここで、国際交流協会あてに届きました坂本さんからのお礼のビデオが、届いたばかりだと聞いていますけれども、ここで紹介したいと思います。

### ～坂本さんからのメッセージ動画～

はじめまして。ポーランド在住の坂本龍太郎です。この1カ月間、私はこちらでウクライナ避難民の支援を行っています。目の前にはたくさんの困っている人達があります。ウクライナ国内にもいます。私の家庭にも実際にいます。彼らに対して支援ができた、それはひとえに静岡の皆さんのおかげです。私は静岡に5年間お世話になりまして、そこで築いた縁、皆さんの温かさ、それを12年、静岡を離れて、今ここで感じる事ができました。それは本当にありがたいことでもありますし、皆さんに対して、ここで感謝を申し上げたいと思います。私はこちらで三つの柱で支援をしています。まず、はじめに、私の家に住んでいるウクライナ人の方々、そしてポーランド国内にいるウクライナの避難民の皆さん、そして、何より支援が必要となっている、ウクライナ国内でなかなか支援が届かない皆さんです。そういった方々に対して素早い支援ができた、ウクライナ国内にはマットレスや防寒具、ガスコンロなどを送ることができました。ここ、ポーランドに住んでいる避難民の皆さん達には食費や生活費、子ども達には本当にお菓子やおもちゃが喜ばれるんですね。そういった笑顔を皆さんに見せることはできないのですけれど、私がいただいた支援で、こちらで皆さん、本当にそれが伝わっている、彼らが喜んで、助かっている。それをこちらで私、ぜひ皆さんに伝えたいことだと思っています。今後、戦争はいつ終わるか分かりませんし、この戦争が終わってからも、長い長い支援の道が続きます。精神的な復興はいつ終わるか分かりません。そういった中でも、皆さんぜひ、今後とも長い目でウクライナ情勢を見ていただければと思います。静岡の皆さん本当にありがとうございました。ご支援、感謝申し上げます。

### ◆市長

はい。ありがとうございました。記者の皆さんには、ご協力ありがとうございます、というチラシを配付しておりますけれども、坂本さんの活動はこれからも続きます。坂本さんに直接送金できる口座もお伝えをしておりますので、引き続き、ウクライナの方々への温かいご支援をよろしくお願いいたします。

それでは二つ目の話題、新型コロナワクチン3回目接種の促進についてに移ります。ご承知のとおり、再び全国的に感染者が増加傾向を示しており、静岡市内でも同様の傾向があります。今後、オミクロン株 BA.1 よりも感染力が強いとされる派生型 BA.2 への置き換わりが進み、過ごしやすい季節となり、人流が増すことによって、さらに感染リスクが高まる事が懸念されます。3回目の接種は、BA.2 に対しても感染予防や重症化予防に効果があるとされており、”待つよりも打つ” 接種をいただける方は、早めのワクチン接種を重ねてお願いいたします。私自身、明日、3回目の接種として、モデルナ製のワクチンをクーポール会館で接種することになりました。一方、新しく3回目接種の対象に加わった12歳から17歳のお子さんには、ファイザー製のワクチンに限定しての接種とします。ですから、モデルナ社製のワクチンのみを使用してきた本市の集団接種会場でも、およそ3万人規模のファイザー社製のワクチンを使用した接種を実施することとなったわけです。本日から12歳から17歳の皆さんの接種券の発送を開始します。明日からはファイザー社製のワクチンでの集団接種の予約も可能となります。そして、このファイザー社製のワクチンの集団

接種は年齢を問わず受けていただけますので、まだ接種されていないお子さんはもちろん、保護者の方も同じ会場で接種いただけますので、ぜひこの機会をご活用いただきたいと思います。なお、ワクチンの接種ができず、またマスクの着用も難しいという小さなお子さんについては、ご家庭での感染予防対策を徹底するなど一層の注意をお願いいたします。今日、私からは以上です。

◆司会

はい。それではただ今の発表につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思います。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。ウクライナから避難して来られる3人の方について伺います。ちょっと経緯が複雑なようですので、間違えないように整理だけさせていただきたいのですが、その方は、3人は、日本に来日したのは先月か今月か分かれば、まず、お願いできますか。

◆市長

お願いします。

◆国際交流課長

国際交流課長の萩原と申します。3人の方、お越しになったのは、県のほうから3月26日に入国をしたと聞いております。

◆NHK

はい。そして、そのご夫婦は静岡市外に住んでいらっしゃる方ということでしょうか。

◆国際交流課長

はい。これまで静岡市外に住んでおりました。

◆NHK

そして、現在、そのご夫婦の静岡市外のご自宅に今はお住まいだということでしょうか。

◆国際交流課長

そうですね。一時的にそこに避難していると聞いております。

◆NHK

そして、これもちょっと慎重に確認したいんですけど、そのご夫婦のお子様3人というわけではないということですか。

◆国際交流課長

奥様のご家族3人ということでお伝えさせていただきます。

◆NHK

そのご夫婦がご両親というわけではないということですね。

◆国際交流課長

ご家族ということでご報告させていただきます。

◆NHK

はい。そして、市外ですすでにお住まいのところを、静岡市の市営住宅に入りたいというのは、こういった理由からのご希望なのでしょうか。

◆国際交流課長

まず県のほうに相談があった中で、その後3月17日に静岡市のほうに県から連絡がありました。そのとき、県営住宅ですとか、市営住宅の提供を発表しておりましたので、静岡市が市営住宅に入居できるということを聞いているということで、そういった相談が県のほうから、ありました。

◆NHK

簡単にいうと、今の、そのご夫婦のご自宅が、5人で暮らすには狭いから、ということでしょうか。

◆国際交流課長

その状態、なぜ静岡市のほうに来るかということまではお伝え、ちょっとできませんけれども、静岡市の市営住宅に入居をご希望されております。

◆NHK

お住まいの自治体の公営住宅、県営住宅等よりも、静岡市の市営住宅のほうを望まれたということですね。

◆国際交流課長

そのところはちょっと聞いておりませんが、静岡市の市営住宅、避難民が入れるということで報道していただいておりますので、それを聞いて、静岡市にぜひ、というお話になりました。

◆NHK

3人、未成年ということですが、これはつまり18歳以下（正しくは18歳未満）であるとい

うことですね。

◆国際交流課長  
はい、そうです。

◆NHK  
就労や就学は何か支援が必要な状況なのでしょうか。

◆国際交流課長  
静岡市に転入してきたところで、もう少し詳しくそういったご希望をお聞きして、対応していきたいと考えております。

◆NHK  
転入は今月中？

◆国際交流課長  
はい。すぐにでも転入したいというご希望を聞いておりますので、そこをサポートしていきたいと思っております。

◆NHK  
今月中にもというか、早晩、数日内にもということですね。分かりました。では、市長にも伺いますが、すでに浜松市で18歳の女性が会見をされていますけれども、3人、ご家族での受け入れということで、よりサポートの形態も変わってくるかと思いますが、改めて、静岡市にお住まいになるのが長期化するかもしれませんので、その辺り、特にお子様ということで、どういった支援を心掛けていかれたいか、お聞かせください。

◆市長  
まず生活を落ち着かせていただきたいということについて、サポートしていきたいと思っております。

◆NHK  
未成年3人ということで、サポートの形態も成人とはまた違ってくると思いますが、その辺りはどうお考えでしょうか。

◆市長  
先ほど課長が言ったとおり、まずは先方のご希望を聞いて、それに寄り添うような形でサポートをしていきたいと思っております。

◆NHK

なお、課長、どちらの都市にお住まいだったかとか、そういった情報も明かせないということですかね。

◆国際交流課長

はい。どちらの都市かということも申し上げられません。

◆NHK

はい。分かりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞です。今の関連なのですけれども、サポート、すでに、どんなサポートかという、具体的に、もうちょっと聞かせていただけないでしょうか。耳にした話では、公共交通機関無料パスの提供などを検討されているというふうに聞いたのですけれども、いかがでしょうか。

◆国際交流課長

そういった検討はしていません。

◆読売新聞

そうすると、あくまでも、今後相談を受けながら、ということですね。

◆国際交流課長

はい。そうです。

◆市長

現時点では市営住宅の家賃と敷金は無償にしたいと思っております。

◆読売新聞

未成年ということですが、就労というか就学の可能性もあるということなんですかね。

◆市長

そうですね。

◆読売新聞

分かりました。

#### ◆司会

その他いかがでしょうか。では、発表案件につきましては以上とさせていただきます。続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。読売新聞さん、お願いいたします。

#### ◆読売新聞

幹事社の読売新聞です。よろしくお願いいたします。今日は2問質問を用意させていただいております。まず1問目は、第4次静岡市総合計画についてです。この4次総の骨子案に対する最初のパブリックコメントが3月中に行われて締め切られたと思いますが、市民の皆さんからどのような意見が寄せられたのでしょうか。ある程度評価されたと感じていらっしゃるのでしょうか。また、70万人口維持の目標を取り下げたことなど、修正を求める声もあったのでしょうか。今後の基本構想、基本計画の策定に向け、どのように反映させていくおつもりなののでしょうか、お聞かせください。

#### ◆市長

はい。ありがとうございます。4次総について4点質問をいただいたと受け止めております。まず、最初、市民からどのような意見があったのかという点ですが、まず、154人の市民の方から306件のご意見をいただきました。現在、取りまとめの作業中であります。その中でいくつか速報としてお知らせいたしますと、まず、これまでの3次総の取組について、駿府城公園周辺であるとか日本平周辺、夢テラスであるとか、そういったものを整備して良かったと評価していただくご意見がありました。あるいは、静岡市が3次総で力を入れた子育て支援の中で、待機児童5年連続ゼロになったわけですけれども、子育て支援施策に対する評価の声もありました。あるいは、これ、静岡型なのですけれども、産後ケア事業ですね。保健師さんの方に協力してもらって、とても孤独感を持ちやすい出産直後のお母さん方のサポートをするという産後ケア事業、これも大変良かったという評価をいただいております。また、目指す都市像に、“まちが輝く”というマクロの視点と、“市民が輝く”というミクロの視点の両立が、「世界に輝く静岡の実現」なのだというふうに定義をしておりますが、「世界に輝く静岡の実現」を、そういうことだったのかということで、イメージできるようになったという感想もありました。一方で、まだまだ文章がこなれていない、少し行政的で分かりづらい、もう少し分かりやすい表現で記述してほしい、という要望などもいただいております。ある程度評価されたかどうかというのは、ちょっとまだ私、早計だと思っておりますので、今後さらにいろいろな市民の皆さん、あるいは議会の皆さんとの議論を通じて考えていきたいというふうに思っています。それから人口維持の関係ですけれども、静岡市の持つ強みを生かしながら交流人口、関係人口の合わせ技で、これから人口活力を強化していきたいという考え方に共感するご意見があった一方で、やはり目標人口は持っておいたほうがいいのか、というご意見もいただいております。最後に、今後の基本計画への取りまとめについて、どのように反映をするかという点については、今月、庁内で策定

会議をしますので、それを経てゴールデンウィーク明けには公表していきたいと思っています。今回のパブコメをはじめ、今後は有識者のヒアリングであるとか、8月にはもう一度2回目のパブコメをしたいと思っています。あるいは議会が6月、9月とありますので、そこでの議論、さまざまな意見を吸収して、そして市民参画型の総合計画にしたい、4次総をそんな過程を通じて練り上げてまいりたいと思います。以上です。

◆読売新聞

続いて次の質問をさせていただきます。2点目は清水庁舎整備の方向性についてであります。これもちょうど先月末に最終報告が公表されました。この中で5案もの選択肢が示されて、正直驚いております。やや実現性に疑問も残る選択肢も含まれているように感じております。整備検討委員会を設置して、しばらく時間に検討を掛けられるようですけれども、建設地を含む整備方針が示されるのがいつごろになりそうでしょうか。1年後の市長選までに、たとえ結論が出ないとしても争点の一つになると考えられますが、市長ご自身は、現時点で、どの選択肢が最も現実的と考えていらっしゃるのでしょうか。教えてください。

◆市長

はい。2点質問をいただきました。まず建設地が決まるのはいつごろになりそうかというご質問ですけれども、今回公表した最終報告は、デジタル化の急速な進展や近年の清水区のまちづくりの変化等について調査研究を行い、ポストコロナ時代に求められる清水庁舎整備の方向性、これを明らかにしたつもりであります。今後の清水庁舎の新たな整備方針については、この最終報告で示した整備パターンをベースに、有識者や公募市民委員によって構成する清水庁舎整備検討委員会で議論していただきます。そこでも、パブリックコメントによる市民の意見も聴取いたします。そういう過程の中で、機関意思決定をして、今年度中にお示ししたいと考えております。もう一つの質問、私自身どう考えるかということですので、まずはこれから発足するこの検討委員会の議論を見守っていきたいというふうに思っています。

◆読売新聞

すいません、確認ですけれど、そうしますと、今年度中ということは、市長選前にその結論が出るという見通しを示されているというのですか。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆読売新聞

分かりました。

◆司会



それでは、ただ今の幹事社質問に関連するご質問を、皆様からお受けしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。人口目標 70 万人というのを最大目標ということで、3次総に記載されていたわけですが、これを撤回されるのに代わる重点目標の指標として、こういったものを市長は重視していかれるか、お聞かせください。

◆市長

やっぱり3次総のPDCを回す中で、新たにこの人口の活力、維持・拡大をどうするかという議論になるべきだというふうに思っています。ストレッチ目標を掲げたということは、これは意味があったというふうに思っています。2025年に人口70万を目指すんだという、かなり厳しい高い目標を掲げたということによって、最大限の努力をさせていただいた。職員も頑張ってくれたというふうに思っています。しかしながら、やはり、それを達成できなかったじゃないか、というご意見もあることから、その辺りは慎重に、定住人口のみならず、関係人口、交流人口の掛け合わせの中で、どう人口活力を維持・拡充していくかを目下、目下、検討しております。

◆NHK

指標というのは当然数字であるべきかと存じますので、どういう指標を重視していかれたいか、いかがでしょうか。

◆市長

政策評価はそうとは限りません。定量的な数値目標ということもありますが、数値では表せない定性的な目標を掲げるということもありますので、ご承知おきください。

◆NHK

例えば、パブコメで示された資料の中では、市民総生産額、市民一人あたり所得額、質の高い生活が送れていると感じる市民の割合といった指標が案として示されていますけれど、市長はこういった数値面での重点目標はどうされたいとお考えでしょうか。

◆市長

これからの議論ですね。

◆NHK

分かりました。もう一つ、市長の今の任期が4月12日までで、あと1年ということになりますが、改めて、あと1年でどこまで成し遂げて任期満了を迎えたいか、お聞かせください。

◆市長

新年度は施政方針で申し上げたとおり、3次総で計画された、登載された事業について、一つひとつ財政規律は堅持しつつ進めていくということに尽きる、一日一日の積み重ねが大事だろうというふうに思っています。

◆NHK

個別具体の政策面で重視すること、目指すこと、ちょっとビジョン的なものをお聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

スポーツの力を最大限に活かしたまちづくり、これを新年度、取り組んでいきたいというふうに思っています。やはり、昨年、オリパラを経験して、やはりスポーツの持つ力の大きさというものを感じました。今頃、メジャーリーグでは、大谷ショータムが始まっているのではないかな、というふうに期待しておりますけれども、本当に年中とても温暖な、スポーツをするにも見るにも適した所与の自然条件、恵まれた自然環境がありますので、そのところは強く取り組んでいきたいなと思っています。

◆NHK

スポーツというのは、エスパルスを擁するまちとしてサッカーなのか、一時期、市長がプロ野球団誘致を掲げた野球なのか、他なのか、こういったスポーツをイメージされているのでしょうか？

◆市長

それは、トップチームを擁する環境整備をするということから、すそ野、例えば、中学校の部活動改革であるとか、あるいは障がいを持った方々のパラスポーツという部分もあろうかと思えます。それから“スポーツ・イン・ライフ”、これは国が掲げている方針ですね。生活の中にスポーツを、ということ、これは5大構想の健康寿命の延伸というところにもつながってきますので、様々な部分でスポーツ・イン・ライフ、このスポーツを実際にする選手も、サポーターとして見る選手も、そして、ボランティアとして支える選手も、する、見る、支える、いろんな面でスポーツを、市民を一つにまとめる力がある、と目して取り組んでまいりたいと思えます。

◆NHK

一応伺いますが、来年、市長選挙には、今時点でどのように態度を取られたいか、お聞かせください。

◆市長

もう一日一日誠実に過ごしていきます。誠実に記者の質問にも回答したいと思っています。

◆NHK

はい。ありがとうございました。

◆司会

その他、幹事社関連のご質問はいかがでしょうか。幹事社質問関連で、はい。朝日テレビさん、お願いいたします。ごめんなさい、間違えました。すみません。後ろの、すいません。

◆SBS

すいません、SBSです。先ほどお話しいただいたことと、ちょっと重複してしまうかもしれないのですが、2点あります。1点目なのですが、静岡市の感染者、新型コロナの感染者がじわじわ増加しているという状況を、先週も、静岡まつりなんかがありました、どのようにお考えなのかを、改めてよろしくお願いします。

◆市長

そうですね。これは懸念しております。しかし、“くらし”を取り戻すという2つのLifeの両立を図らなければいけません。その辺のハンドリングが、これから難しいと思いますが、今日、保健所長が同席しておりますので、補足させていただきます。

◆保健所長

はい。保健所長の田中でございます。静岡まつりの感染者数への影響ということで、私ども、この1週間、感染者ウォッチをしてきましたけれども、患者数のトレンド自体は、やはり増加傾向にはあります。これはやはり陽気が良くなってきたことによる人流の回復、また、いわゆるステルスオミクロン、BA.2株が、大体の直近の値で75%置き換わっている、従前のオミクロンに比べまして1.2倍から1.4倍感染力が高いということで、こういったものによりまして、大体3月後半ぐらいから上昇トレンドにあるということなんですけれども、基本的に、この三日間、静岡まつり、ありましたけれども、その後、この上昇トレンドが著しく増加したとか、そういったエビデンスが見られておりませんので、特に今回、このまつり自体による感染者数の増加そのものには、影響はなかったのではないかと考えております。ただ、いずれにしましても、この上昇トレンドにあるということは間違いございませんので、引き続き、市民の皆様方には予防対策の徹底、あと、3回目のワクチン接種のご検討、さらに、小さなお子様を必要以上に、ワクチンが打てない、マスクもできないということもありますので、今後、大型連休もありますけれども、そういった人混みに必要以上に連れ出さないようにしていただきたいなど、注意を引き続きお願いしたいと思っております。

◆SBS

ありがとうございます。市長からも市民に向けて、改めてよろしくお願いします。

◆市長

はい。そうですね。私、静岡まつりの初日ですね。前夜まつりの次の土曜日に大御所行列に参加して、行列に参加したのですけれども、本当に想定以上の方々が沿道を埋めてくれました。そして、その表情の一つひとつを見ると、笑顔があふれているんですね。本当に待ち望んでいたのだな、というふうに思いました。鈴木福君効果も大きかったと思いますけれども、その光景を見るにつけて、やはり外に出たくて出られなかったという気持ちを、今回、発散してくれたのだろうなというふうに思いました。ですから、やはりこの“いのち”と“くらし”の両立ということのコントロールが本当に最も重要だなというふうに再確認をしたところであります。無難なほう、無難なほうに行くと、やはり“いのち”を重視することなのでしょうけれども、そこら辺のところは、やはり、経済の活性化もしていかなければいけませんので、そのところは大きな目線でのバランス感覚というのが必要なのだろうなというふうに思っています。

◆SBS

ありがとうございます。2点目なのですけれども、先ほど、市長、お話しの中で、静岡市の待機児童が5年連続でゼロということをおっしゃっていたと思うのですけれども、一方で、いわゆる隠れ待機児童というのは、まだ100人を超えているということですが、そのことについて何かお話しをお願いします。

◆市長

そうですね。それが次のフェーズだろうというふうに思っています。まずベースとして、待機児童、やはり、保育所、こども園を整備することによって、量的な拡大ということは達成いたしました。次のフェーズは、やはり質的な充実ですよね。これがやはり隠れ児童の方々を受け入れるというか、そのニーズに寄り添っていくポイントだろうと思っておりますので、子ども未来局を中心に、そのところをこれから、質的な充実を求めて取り組んでまいりたいというふうに思っています。なお、子ども未来局長、新しくなりましたので、4月1日に、4次総の中でも子育て支援ということを大きく打ちだしていきたいので、静岡型の新しいフェーズの独自の子育て支援策を、ぜひ検討してほしいということを指示してあります。

◆SBS

現段階では、具体的に何か新しい政策というのは、まだないということですかね。

◆市長

目下、目下ですね。でもトレンドとすると、量的拡大から質的充実ということになるのでしょうか。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

その他、幹事社質問関連はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問があれば、お受けしたいと思います。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞ですが、2点、ご質問がありまして、一つは、浜の売店の三保松原の跡地の、前回の会見でも質問があったようですけれど、それが1点とですね。もう一個はスタジアムの関係です。

1点目で、三保松原の浜の売店跡地をどのようにするかということに関して、前回の会見で、市長、フレキシブルにとか、ゼロベースでというご発言がございましたけれども、もともとの議会での担当課のご説明では、松を植えるというような方針がございましたけれども、ここは一回ゼロベースで考え直すと、撤回するというか、そのような受け止めでよろしいのでしょうか。

◆市長

はい。ありがとうございます。ゼロベースが一人歩きしたのだったら、それは少し修正しなければいけません。発言の趣旨は、松の植栽をゼロベースで考え直す、ということではありません。この方針は、売店跡地の全てに松を植栽するという極端なものではなく、地元の方々の意見も、今後聞きながら、保全と活用をどう両立していくかという取り組みを、フレキシブルに考えていきたいという趣旨です。

◆静岡新聞

なるほど。

◆司会

すいません、マイクをお願いいたします。

◆静岡新聞

進め方として、例えば官民協議会をお作りになるとか、そういった具体的なことというのはお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

そうですね。本当に関心の高い事業ですので、市民の方々の意見に耳を傾けることは大変重要なことと考えております。意見交換なんかには私自身も参加をしていきたいというふうに

思っておりますが、検討委員会ということについては、今、そんなご提案をいただきましたので、受け止めておきたいと思えます。

◆静岡新聞

すいません、ちょっと長くなりますけれども…

◆司会

マイクをすいません。

◆静岡新聞

スタジアムのお話ですけれども、前回というか、先日、社長さんが見えられて、積極的なご発言をされたということで弊社も報道しているのですが、市長は、スタジアムの、先ほどのお話しでもございましたけれど、NHKさんの、スタジアムの整備は、基本的に民間で進めるべきだというふうにお考えになっていらっしゃるのか、それとも官民共同で行うべきなのかとか、その辺に関して主体がちょっと、今は見えない状況だと思えますので、そこをどう考えていらっしゃるのかなというのを。

◆市長

まさに見えない状況だと思えます。ただ、公民連携でやっていきたいということは、民間の皆さんにも、私、お願いしています。

◆静岡新聞

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいですか。では、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。私からもスタジアムについて伺いますが、先週、大田社長の退任挨拶を受けられた際の、テレビ静岡さんと静岡新聞さん、独自に取材をされて、スタジアムの建設構想について前向きな意見が交わされたとみられる、ということも2社とも報道されました。一方で、私、聞いた限りでは、市側からスタジアムのお話は振ったけれども、大田社長から具体的な発言はなかったのではないかと聞いておまして、これ、どちらだったのか、サポーターの注目度も高いので、明確にお答えいただきたいのですが…

◆市長

これも公民連携の大きな事業であります。ウィン・ウインの関係を、静岡市とENEOSさんと築き上げたいというふうにお思っております。ですので、私はまず、市として前向きに、

これからENEOSさんが、清水で展開をしようとする水素ビジネスについて、どう支援をすることができるのか、このことについて、環境局長も同席して積極的に話をしました。今、国に対して脱炭素地域への応募もしている、非常に感触がいいんだというお話しも、しました。そういう意味では、去年の協定も、そこにあったわけですので、まず静岡市がENEOSさんに何ができるのかということについて、私の思いを大田社長に伝えつつもりがあります。大田社長が、我々市民が求めているスタジアムのことについて、どんなふうに前向きに回答していただけるのかというのは、社長の交代の時期ですので、やはり、齊藤新社長に委ねられるのだろうかというふうに思っています。

◆NHK

おっしゃったことはそのとおりだと思うのですが、結局、報道された前向きな意見が交わされたという、そもそも大田社長が何か発言をされたのか、事実関係としてはいかがでしょうか。

◆市長

30分ぐらいかな、懇談をしたわけですが、その8割、9割は、実は脱炭素の環境局マターのやり取りでした。

◆NHK

そして、スタジアムの話は、話題に出たことはたぶん事実だと思うのですが、話題に出たというか、静岡市が話題として振ったことは事実だと思うのですが、大田社長は何かおっしゃったのでしょうか。

◆市長

受け止めていただいたと信じています。

◆NHK

大田社長が否定的とは全く思っていないのですが、現に、すでに2年前に川勝知事との協定の中で、知事から話題を振られるかたちで、「現段階で決まったことはないがスタジアムについても検討をしていく場面があると思う」と、すでに前向きな発言をされているので、そのスタンスは変わっていないと思うのですが、先週の市長との面談の中で、何か新しい発言があったのかどうか、それは特になかったということによろしいですか。

◆市長

とても和やかな雰囲気でお互い寄り添いたいという気持ちはありましたので、お互いの温度が高め合うような、そんなやり取りだったということをおし上げておきたいと思います。

◆NHK

我々報道の世界では、「かぎカッコ」という言い方をよくするのですが、大田社長が何々と話した、という事実があるかどうか、もう一度だけ伺わせてください。

◆市長

これは先方の意向もあるので、慎重にしたいと思っています。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。そして、アリーナについて、もう一回、伺わせてください。先週、前々回もそうでしたけれども、市長が、「若い人の流出防止対策になる」と、『アリーナみたいな施設があれば、東京の大学、県外の大学に進学せずに、静岡の大学に行ってもいいのだけれども』という若者が多くいる」という説明がありましたけれども、これ、誰のことでしょうか。

◆市長

どういう質問でしょうか。

◆NHK

私なりにいろいろ取材を、若い人も含めて、あるいはアリーナ賛成派の方も含めて聞きましたけれども、アリーナの有無で大学の進学先を県内に定めるという若者がいるというのは、ちょっとぴんとこないな、という反応しかなくてですね。ただ、市長が政策の根拠として、そうおっしゃるからには、実在するのかどうかを明確にしていきたいのですが。

◆市長

記者、この前も申し上げましたけれども、論理の飛躍がご自身の中にあるのではないのでしょうか。政策の根拠とか、そういうふうな大げさな言い方を、私はしたつもりはございません。

◆NHK

「若者の流出防止対策になる」と、「流出防止につながる」と、そう市長が2回もおっしゃっているのです、私が論理飛躍しているというのは、私の質問や報道の信頼性に関わりますので、そこは明確にしていきたいのですが。

◆市長

少なくとも記者よりも私のほうが、この11年間、静岡の若い方々との様々な出会いがあり、人数的にも、あなたよりも多くの方と会っています。そういう中で、「私の好きなアーティストの、ビッグアーティストのコンサート会場が静岡にも欲しいな」と、あるとか、「東京はやはり、そういうコンサート会場が恵まれているから、うらやましい」とか、そういう声が、たくさんあったということをお伝えいたしました。



◆NHK

うらやましい声がたくさんあるのは、それはそうなのだろうなと思います。アリーナのような施設があれば、県内の大学に進学する、ないから県外の大学に進学するという若者が実在するのかどうか、その説明をお願いします。

◆市長

「世界に輝く静岡の実現」という大きな目標に向かっては、やはり、そういう受け皿というのが必要なのではないのでしょうか。

◆NHK

そういったアリーナの大きな理念的なことではなくて、それによって大学進学先を県内にするか、県外にするかを決める、という若者が存在するのかどうか、その証明をお願いしたいのです。

◆市長

そんなことを証明はできません、この場所で。証明するという問題ではないでしょう。先ほど、数値目標が全部だということで、数値目標で人口…

◆NHK

全部という言葉は使っておりません。市長も私の言葉をねじ曲げていませんか。

◆市長

そうじゃない、そうじゃない。いいですか。もう一度申し上げます。やはり定性的な、主観的なさまざまな意見というのは、様々な方々が持っているのです。ですから、それは証明できるという性質のものではない、ということ、ぜひ、ご認識いただきたいと思います。以上です。

◆NHK

ただ、2回も市長は、「アリーナの有無によって大学の進学先を県内にする、県外にするのか決める若者がいる」と、2回の会見で繰り返しておっしゃいました。その根拠をお示しいただきたいのです。

◆市長

時間ですから、もう申し上げたつもりですので、ご理解いただきたいと思います。今までの私の発言の中で、記者の頭の中でご理解いただきたいと思います。

◆NHK

ご理解をするために証明をしていただきたいのです。

◆市長

もう時間になりましたので。

◆NHK

市長、あるいは、うそをついたということですか。

◆市長

そんなことは申し上げていません。

◆NHK

では、その若者がどこにいるのか、存在を証明していただきたいのですが。

◆市長

私たちが11年間、いろいろな若者と対話をしてきているわけですよ。市長ミーティングもやりました。お茶カフェトークもやりました。その一つひとつを証明するということではない、私の「これが若者の思いなんだな」ということで積み重なった気持ちがあるわけですね。それを証明という言い方をするのは、逆に失礼ではないですか。

◆NHK

では、実在しないということですか、そういった若者は。

◆市長

何ですか。

◆NHK

市長が政策の根拠として、記者会見で2回も繰り返しおっしゃった、その若者が実際にいるかどうか。

◆市長

質問の趣旨が分かりません。

◆NHK

そういった若者は存在するのでしょうか。

◆市長

するでしょうね。

◆NHK

するでしょう、という市長の推測なのか、それとも事実なのか、どちらですか。

◆市長

「そういう意見を伺ったことがある」というふうに申し上げておけば、納得していただけますでしょうか。

◆NHK

そういった声が多かった、とおっしゃいましたが、政策の根拠として取るに足るような、それだけの若者の数がたくさんいるのかどうか、アリーナの有無によって大学の進学先を決める若者がいるのかどうか、これは市長の発言の信頼性に関わってきますので、ご説明ください。

◆市長

記者の皆さん、どう思いますか。同じように思っていますか。そんなふうには思っていない。

◆NHK

思っていないというのは、そういった若者がいるとは思っていない、ということですか。

◆市長

いや、そういうことではなくて、そういう若者がいるということ、私の今までの、様々な対話の中で感じているということ、申し上げただけであります。そういう若者の期待に応えていくということが大事なんだと。特に東静岡、草薙エリアというのを若者が闊歩するまちにする、そこに求心力が強い拠点にする、というのが5大構想の一つでもありますので、そこでアリーナの整備というものは、大事なこれからの事業になるのではないかな、というのが、市の大きな方向性であります。

◆NHK

つまり、市長は、アリーナを望んでいる若者が多くいるということを感じて、それを若者の流出対策につながる、大学進学先に影響を与えると、論理を飛躍させたということでしょうか。

◆市長

このまま行っても平行線じゃないか。私はマクロの大きな方向性、まだこれから目下、目下検討することについてマクロな視点で申し上げているのですが、記者のほうはミクロな視点で何か定義づけをしようというふうに思います。このまま行っても議論、平行線だと思

ますので。

◆NHK

市長の発言が事実なのかどうかということを問うているだけです。

◆市長

事実ですよ。でも、記憶の中に、これは積み重ねられたということでもあります。

◆NHK

では質問を変えます。アリーナを作ることで、何人ぐらいの若者の流出を防げるという見通しを持っていらっしゃるのでしょうか。

◆市長

そんなことは分かりません。

◆NHK

そんなことを根拠として2回も挙げられたのですか。

◆市長

いやいや、そうではなくて、これからの議論は、そういう定性的な、私の受け止めた意見もベースにしながら、どういうふうに立案していく、ということで、所管と今、議論をしているということなんですね、分かりませんか、この基本的なことが。

◆NHK

市長の個人的な感想で議論がスタートしているということですか。

◆市長

そうです。市長としての個人の、今まで出会った市の職員よりも私はいろいろな方に出会っているという中で、これをベースにして、ぜひ検討してほしいということをやっているということですね。

◆NHK

分かりました。市長の考え方はよく分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは目安の45分を過ぎておりますので、本日の会見はここまでとさせていただきます。次回は4月22日の金曜日、11時からの予定となります。